



# 布施だより

## 《 生徒同士が高め合う関わり 》

西中では「活用する力(書くこと・説明すること)」を高めようと教科会を中心に、授業改善に取り組んできました。各教科が授業の中での生徒の変容を通して、教科会として授業を振り返り、次の日の授業に活かしてきました。

～ ～ ～と、前号でお伝えしましたが、その取り組みが「教育指導時報11月号〈学力向上を支える3つの『かかわり』〉(長野県教育指導時報刊行会)」で掲載されていました。ご紹介いたします。お読みください。

～ ～ ～ ～ ～

「う～ん、どうしたら伝わるんだろう」数学の授業場面。BさんはCさんの隣で問題文を見ながら悩んでいました。Cさんは海外での生活が長く、数式は理解できるが、問題文の「説明してみましよう」の「説明」という言葉の意味がわからないようです。その様子を見てBさんは立ち上がり、Cさんの隣で考え始めます。「説明は・・・理由?理由ってこと」とつぶやき、Cさんの学習カードに「理由」と書き込みました。うなずくCさん。席に戻ったBさんに、先生は「ありがとう。今度は自分の考えを伝えてみよう」と声をかけました。Bさんは自分の考えを学習カードに書くと、今度はCさんの隣にしゃがみ込み、説明を始めます。Cさんの反応を見て、式を指さしたり、矢印を付け足したりしながら、どうやったら伝わるのかを考え、言葉を探しながら説明しているようでした。「わかる?」との問いかけに笑顔で応えたCさんは自分の説明に指をさしました。自分の説明を見て欲しいのだと気付いたBさん。図と式で書かれた説明をじっくりと見てから「うん、わかる、わかる」とつぶやきます。



顔を上げたBさんは「伝わったね、私たち。やった」とCさんとハイタッチを交わしました。互いの考えをわかちあい、学び合った一体感を表現した姿です。・・・また、子どもの姿を捉えて「今わかっていることや、途中のことも伝えてみよう」と関わりを促すことで、互いが認め合い、高め合えるようにしています。教師の間接的、直接的な支援が、子ども同士の自然な関わりを生むことにつながっています。

このような子ども同士の関わりを通して深まっていく言語活動が篠ノ井西中学校の学力向上を支えています。篠西中の取り組みから学力向上を支える3つの関わりが見えてきました。

- ①生徒と教師の関わりが深まることで、生徒に安心感と規律が育ち、学習意欲が向上していく。
- ②生徒同士の関わりが高まることで、自分の考えを伝えたくなり、言語活動が充実していく。
- ③教師同士の関わりが広がることで、生徒や教科への思いが共有され、授業改善が進んでいく。

## 《 学校生活相談センター「子ども専用無料相談電話」開設について》

県教育委員会内に設置しております「学校生活相談センター」では、不登校やいじめ等様々な悩みを抱える子どもやご家庭からの相談を受け付け、関係機関のご理解ご協力を得ながら支援を行っています。さて年末から年始は、これまでを振り返り、新しい目標に向かって学校生活を送る時期になります。一方で子どもの人間関係や心にも変化が見られるこの時期、学校生活に不安を抱えている子どもたちから直接悩みを聴くため、「子ども専用無料相談電話」を開設します。ご活用ください。



©長野県アルクマ

**悩みがあったら聴かせて。  
あなたが心配だから。**

**0800-800-8347**

**1月6日(水)～1月22日(金)**

**(土・日・祝日を除きます。)**

**午前8:30～午後7:00**

## 大けがを負った生徒のその後の容態について

保護者の皆様に大変ご心配をおかけしております大けがを負った生徒のその後の容態についてお知らせいたします。

大けがを負った生徒は、先日の学年通信でお知らせいたしましたように11月25日(水)に一般病棟に移り順調に回復し、12月6日(日)には外泊の許可が出て、翌7日(月)に登校することができました。その後病院に戻り療養してまいりましたが11日(金)に医師から生徒の容態について「後遺症なく回復できたと考えてよい。」との説明があり、12日(土)に退院し、本日14日(月)から登校できることになりました。

この間、保護者の皆様に大変なご心配やご不安を与えてしまったことにつきましてあらためてお詫び申し上げます。また生徒の一刻も早い回復にお心をお寄せいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今後このようなことを二度と起こさぬよう、全職員が今まで以上に危機意識を持って生徒の安全確保に努めるとともに、施設設備等の点検を一層入念に行ったり、危険を伴う活動の見直しを行ったりして生徒の安全に努めてまいります。何卒保護者の皆様のご理解をお願いいたします。

篠ノ井西中学校長 西澤 道生

## 《 年の瀬の大収穫！ 》

- < 人権作文 > 第35回全国中学生人権作文コンテスト長野県大会長野地区予選  
奨励賞 杉浦 永愛 さん  
学校賞 篠ノ井西中学校
- < 剣道 > 市剣道連盟1年生ジュニア強化大会  
2位 和田 七海 さん



年末のこの時期、生徒たちの頑張りに触れていると、不思議と国語教師であった故大村はま先生の言葉が思い返されます。

～子どもは大人が思っているよりずっと自尊心が強くてね。つまり、限りない可能性を秘めて奮闘しているのね。到底できそうもないことでもね、できると信じなきゃいけないわけ。これから何十年と生きていく人でしょ。何か一生懸命なんじゃないかしら、生きていくことに。だから30点なんて点を取ってもね、大人が思うほどがっかりしてないのよ。やればできるような気持ちになってるの。それを大人は信じないといけないの。大人が「お前はできる！」と信じ続けてあげる限りにおいて、頼もしい、絶望を知らない魂というか、子どもはそれを信じて生きていくんです。～

「頼もしくて、絶望などこれっぽちも知らない魂」をもつ生徒諸君が、  
新しい年へ向かっていこうとしています。

